

米国環境保護庁
ワシントン、D.C.20460

大気放射局

2016年4月20日

ENERGY STAR コンピュータサーバパートナー、CB、ラボ関係者各位

国環境保護庁(EPA)は、本レターにより要求試験項目及び提出資料(required testing and submission)から最大消費電力構成(Maximum Power Configuration)を削除した ENERGY STAR コンピュータサーバ基準バージョン 2.1 を最終的に確定する。

前述のように、EPA は関係者の積極的な意見を入れて、稼動(active)効率要件を設定することで、最大消費電力構成試験によるデータがデータ解析に対する最少値も提供すると判断した。現在、EPA が、基準バージョン 3.0 で取り込もうとしているものである。更に、最大消費電力構成は、概して製品群の試験において最も高いレベルの試験負荷(testing burden)を生じさせることになる。

EPA は、製品群においてソケット当たりの最高プロセッサ性能を確実に把握するために、ハイエンド構成の定義にもわずかな改訂を行った。EPA は、仮想化などを実装するシステムレベル効率(system level efficiencies)を提供することができ、ハイエンド構成を超えるメモリーを追加した特有なサーバ構成があることを認識している。EPA は、メモリー容量を増加させて試験時よりも大きなメモリー容量を有する構成を製品群の中に正当な構成として加えた届出を受け付ける用意がある。ただし、メモリーに関する試験以外で、追加したメモリーがサーバ性能に影響を与えない場合、また、メモリーを追加した構成がその他の全ての適合基準(例えば、電源、電力管理、適用対象ならアイドル時消費電力、消費電力及び温度報告等)を満たしている場合とする。

適合目的としては、今後の QPX 提出資料の中では、最大消費電力構成の欄は空欄のままでよい。

バージョン 2.1 に関する質問は、小職(Hanson.Steven@epa.gov もしくは 202-343-9836)、又は John Clinger(John.Clinger@icfi.com もしくは 215-967-9407)に連絡のこと。その他のコンピュータサーバに関する質問は (servers@energystar.gov) に連絡のこと。ENERGY STAR プログラムの支援継続に感謝する。

Steven Hanson

ENERGY STAR データセンター製品担当マネジャー